



# 蒲小だより

未来を拓く児童の育成

文責 校長 山本 智文

## あけましておめでとうございます 本年もよろしくおねがいします



保護者の皆様、地域の皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年中は本校の教育に対しまして温かいご支援とご協力をいただきましたことに感謝し、お礼申し上げます。

ご承知のように、今年は「巳年」です。令和7年、乙巳は「成長」や「変革」の年になりそうです。「乙」は植物がこれから成長していく状態、「巳」は豊穰＝植物が最大限まで成長した状態を表しています。この両極端の状態を組み合わせた乙巳は、成長の途中、つまりこれまでの努力や準備が実を結びはじめ、勢いを増していくことを示唆しています。成長の速度は、人それぞれです。速いスピードで進んで年内のうちに成果を手にする人もいれば、毎日ゆっくりと一歩ずつ前進していく人もいます。なかなか結果が出ないときも、人と比べることなく、焦らず粘り強く取り組むことが大切です。人は人、わたしはわたし、でOK！自分が日々心地よいペースで、着実に前に進んでいくことで、いずれは喜ばしい結果を手にすることができるでしょう。

1月7日から、3学期が始まります。3学期は、「次の学年の0学期」ともいえます。私は、担任をしている時代、3学期は「特別な学期」と意識して臨んでいました。「その学年の集大成の学期」「次の学年への価値を生み出す準備期間」と位置付け、一日一日を大切に子どもたちと向き合うようにしていました。私の発する声かけも“メッセージ性”をふんだんに盛り込み、心地よい緊張感をもって子どもたちと生活していたのを昨日のように思い出します。「子どもたちには二度と帰ってこない〇年生」を自分に言い聞かせつつ、子どもたちには、「自分たちは仲間と力を合わせて築き上げてきた一年間だった」と胸を張って言える集団にしていけるよう子どもたち一人一人と向き合っていました。うまくいかなかったことも当然あります。ある意味、失敗の連続だったかもしれません。でも、“担任としての一生懸命な姿”は伝えようと精一杯努力しました。

今年も蒲刈小学校の子どもたち一人一人が、新たな目標に向かって持てる力を存分に発揮して飛躍する1年にしていけるよう全教職員で子どもたちの指導・支援にあたっていく所存です。

昨年に引き続き、子どもたちを地域の行事や企画等に積極的に参加させ、地域の「ヒト」「モノ」「コト」の本物に出会わせ、自分の生き方につなげさせていく取組をより一層充実させていきます。昨年に引き続きまして、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。さあ、新たな始まりです！

### 日新日々新 (ひあらたに ひびあらたなり)

「前日までの反省をもとに毎日新たな気持ちで行動し、修養するように心がけて、昨日よりも今日、今日よりも明日と、日々進歩し、子どもたちと共に成長していきたいものです。」



## 〇〇〇〇もエラーをする！ ②

〈12月号の続きです〉

### ◆間違えても大丈夫な気持ちにさせる◆

完璧を目指す子どもが間違えたら、個別にそっと伝えてあげたいものです。



“間違えることが怖い”のだから、それを経験した時、「怖いものがなくなった!」と思わせる事です。少なくとも、「失敗に対して抵抗感が少なくなる」と子どもに感じさせたいのです。算数科の時間によく子どもたちに話していました。「プロセスが大切なんだよ!」と。正しい答えを導き出す子どもを育てるのではなく、さまざまなプロセスを考えることのできる子どもになってほしいという事です。“柔軟な思考力”“失敗を成功に変える力”を身に付けさせたいのです。失敗を恐れたり、悔んだりしては事は前には進みません!

日本の先人にまつわることわざはたくさんあります。「猿も木から落ちる」「釈迦に経の読み間違い」「河童の川流れ」「弘法も筆の誤り」等です。外国にも同様の言葉があります。そこで、子どもたちに「なぜ、このような言葉がたくさんあるのだろうか?」とたずねます。多くの子どもたちは「人間はみんな失敗をするから..」と答えます。しかも、その道のプロが失敗している例が挙げられているのです。

### 👉 「イチローもエラーをする!」

イチローの名言集「夢をつかむ イチロー262のメッセージ」(ぴあ・2005年)には、子どもたちに“参考になる言葉”がたくさん掲載されています。



例えば、2003年4月に、イチローがアメリカの小学校を訪れた際の言葉は、子どもたちにぜひ覚えておいてほしいものです。それは、「何かをしようとした時、失敗を恐れなくて、やってください。失敗して負けたら、その理由を考えて反省してください。必ず、将来の役に立つと思います。」同様のことを担任等が言うよりも、イチローが言うことに重みがあるのです。伝えたい事を有名人や偉人の名前を借りて、子どもたちに伝えるという方法は効果的に働きます。

間違えた解答をした子どもに対する言葉が魔法のように効くためには、“周りの子どもたち”にも魔法が効くようにしなければなりません。つまり、周囲が“その子どもの失敗”をどう受け止めるかということです。“ドンマイ”という温かい声かけをするのか、“こんな簡単な問題を間違えるなんてバカじゃないの”と冷ややかな捉え方をするかです。間違えたことがとんでもないことなのか、どうってことないことなのか、クラスの子どもの受け止め方によるところが大きく左右するのです。

「言葉の魔法」は、言葉をかける前に半分以上かかっているのです。

蒲刈小学校の子どもたちが「間違えた解答をした子ども」に冷ややかな態度をとっているから紹介しているのでは決してありません。本校の子どもたちは、仲間を思いやるとても温かい心の持ち主です。では、なぜ、このようなことを掲載したかという、常日頃から職員や子どもたちには「言葉を大切にしよう」「言葉の持つ力は大きい」と伝えていきます。「“どういう言葉を発するか”、“相手を意識してどう立ち振る舞うか”等が、人を成長させる意味においてとても重要になってくるのだ!」と話してきています。「言葉の感性を磨く」とでも言いましょうか、自分を一回りも二回りも大きく成長させていくためには、「言葉の力」はとても重要になってくる要素なのです。人が勇気づけられて前に向いて前進していくのも、「言葉の力」によるところが大きいのです。今回も、長々と話してしまいました...。

## 5・6年生が「下蒲刈いきいきサロン」に参加しました！

11月25日(月)に、5・6年生が「下蒲刈いきいきサロン」に参加しました。

かねてより計画してきた「下蒲刈いきいきサロン」での表現発表会がついに実現しました。当日は、「蒲小太鼓」を披露しました。下蒲刈町三之瀬の合同庁舎には多くの地域の高齢者の方々が集まってこられました。会場に集まっておられた方から「久しぶりに子どもの姿を見るねえ。」「今日は元気をもらえるわあ。」等の声が漏れ聞こえてきました。蒲刈小学校は、「地域とともに歩む学校づくり」を目指しています。“子どもたちの姿を通して、地域に元気が与えられる”，“地域から子どもたちの頑張りが高く評価をさせれる”これらの相乗効果により、子どもたちに「大切にしたい価値が生まれる..」。これから、子どもたちに地域の「ヒト」「モノ」「コト」に出会わせ、自分たちの生き方につなげさせていく取組に果敢にチャレンジしていきます。次回は、「狂言『竹取物語』」を披露する予定です。楽しみ、楽しみ..。



## 1年生が下蒲刈保育所の園児と交流しました！

12月2日(月)に、1年生が「下蒲刈保育所の園児」と交流会をもちました。

自分たちが見つけた秋の自然を使っておもちゃを工夫して作り、園児と一緒に遊ぶ「秋のおもちゃ会」を行いました。5つのチームに分かれて、ぱんだ組、きりん組のみんなに「どんぐりごま」「まつぼっくりけん玉」「さかなつり」「どんぐりマラカス」「どんぐりめいろ」のやり方を教えたり、一緒に遊んだりして楽しい時間を過ごすことができました。保育所の先生方からは「1年生が自分たちだけで会を進行する姿がとてまかつよかつた!」と褒めていただきました。また、自分たちが作ったおもちゃで園児たちに楽しく遊んでもらえてうれしそうにしていた姿がとてま印象に残りました。

久しぶりの下蒲刈保育所に帰り、園児たちと触れ合うことができた1年生。お兄さん、お姉さんとしての立ち振る舞いを見てもらうことができて、さぞかし達成感を得ることができたことでしょう。一つ一つ経験を積んでいくことで一回りも二回りも大きく成長していく子どもたち。いろいろな環境の中に、積極的に自ら身を投じていくことの大切さを感じた貴重な時間となりました。

「1年生のみなさん、しっかりと自分たちの成長を表現することができましたね!」

「次は、何にチャレンジしようかな?」



## 1・2年生が「防災ダック」に参加しました！

12月10日(火)に、1・2年生が「**防災ダック**」に参加しました。

「防災ダック」とは、安全・安心の「最初の第一歩(ファースト・ムーヴ)」を、子どもたちが、実際に身体を動かし、声に出して遊びながら学んでもらうためのカードゲームです。

蒲刈町の民生児童委員会長さん、主任児童委員さん、民生委員児童委員さん、呉市社協職員さん4名にご来校いただき、自分たちの身を守る対処方法等についてご指導いただきました。最後に、みんなで「じゃんけん列車」と「もうじゅう狩りに行こうよ」をし、楽しく学べる活動の時間を過ごすことができました。最初は、緊張気味の子どもたちでしたが、児童委員さんたちのユーモアたっぷりの演技に一気に引き込まれ、いつしか笑顔いっぱいの黄色い声が飛び交う活動となりました。

今回の活動を通して、子どもたちは、「**身体を動かし、声を出し、楽しく遊びながら『自分の命は自分で守る』という自助の心**」を身に付けて行くことができました。改めて、地域の方々に感謝です。



## 3・4年生が「下蒲刈デイサービスセンター」にて交流会を開催しました！

12月13日(金)に、3・4年生が「**下蒲刈デイサービスセンター**」にて交流会を開催しました。

子どもたちは、総合的な学習の時間のカリキュラムの一環として、今回の訪問を企画しました。

「どうすれば高齢者の方々に喜んでもらえるか」という視点で自分たちで知恵を出し合い、具体像を描くとともに、長い時間をかけて練習を積み重ねてきました。当日は、子どもたちの堂々とした姿から練習の成果を感じ取ることができました。子どもたちの力って本当に素晴らしいですね。**子どもたちが心から「相手を意識して活動する」ことの大切さ**を、子どもたちの姿を通して教えてもらいました。これだから、教育はやめられないのです…。

最後に、会場の全員で記念写真(右下)を撮りました。みんな素敵な表情をしていたのがとても印象的でした。何度も言うようですが、子どもたちは様々な経験を通して大きく成長していくものと考えています。だからこそ、我々教師は、「**子どもたちの先の成長**」を見据えて、様々に仕かけていかなければならないと考えています。「しかける=やりがい=喜び」という方程式になるのです。

